

# 排出削減実績報告書

## 排出削減事業の名称：

A 重油貫流ボイラーから都市ガス貫流ボイラーへの  
更新プロジェクト

排出削減事業者名：山梨罐詰 株式会社

排出削減事業共同実施者名：静岡ガス 株式会社

その他関連事業者名:

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	山梨罐詰株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	本社事業所
住所	静岡県静岡市清水区興津中町 974 番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	静岡ガス株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

A 重油貫流ボイラーから都市ガスボイラーへの更新プロジェクト

### 2.2 排出削減事業の目的

当社が使用している A 重油貫流ボイラー5 台のうち、2 台を高効率の都市ガス貫流ボイラーへ更新する。ボイラーの高効率化による燃料使用量の削減及び低炭素燃料へのエネルギー転換によって、CO2 排出量を削減する。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

現在使用している貫流ボイラーは、経年劣化によりボイラー効率が悪化しているため、これを新しい貫流ボイラーへ更新することで燃料使用量を削減し、CO2 排出量を削減する。また、都市ガスは A 重油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラーの燃料を都市ガスに転換することにより CO2 排出量を削減する。

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし。

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2008年9月16日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～2016年9月15日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

本削減事業においては活動量・原単位は用いない。

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

なし。

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

このプロジェクトの範囲は、既存のA重油貫流ボイラーと更新後の都市ガス貫流ボイラーの燃料使用に由来するCO<sub>2</sub>排出量である。これらボイラーが生産した蒸気を社外へ供給することはないため、プロジェクトの範囲は、更新する都市ガス貫流ボイラー及び更新するボイラーから蒸気の供給を受ける設備である。

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある 場合、) 変更理由
$F_{fuel,Pj}$	都市ガス使用量	$m^3N$	No1 ボイラー 606.6 千 $m^3$ N No2 ボイラー 613.8 千 $m^3$ N	No.1、No.2 ボイラー各々の管理 用ガスメータの数値を記録	N/A
$HV_{fuel,Pj}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/千 $m^3$ N	45.0	ガス会社の公表値 (高位発熱量) 「一般ガス供給約款」	N/A
$\epsilon_{Pj}$	燃料転換後ボイラー効率 No.1 ボイラー	%	2013 年度 83.90% 2014 年度 83.97% 2015 年度 83.72% 2016 年度 84.00% (高位発熱量)	ボイラー会社である三浦工業 が年 2 回実施する定期点検時 に報告するボイラー効率の年 間単純平均値	N/A
	燃料転換後ボイラー効率 No.2 ボイラー	%	2013 年度 83.83% 2014 年度 83.70% 2015 年度 83.61% 2016 年度 84.32% (高位発熱量)		
$CF_{fuel,BL}$	A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	0.0708	デフォルト値	N/A
$CF_{fuel,Pj}$	都市ガスの単位発熱量あたりの炭素排出係数	t-CO <sub>2</sub> /GJ	0.0517	デフォルト値	N/A

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
No.1 ボイラー 606.6 千 N m <sup>3</sup>	45GJ/千 N m <sup>3</sup> (高位発熱量)	0.0517t-CO2/GJ	1,411.4t-CO2
No.2 ボイラー 613.8 千 N m <sup>3</sup>	45GJ/千 N m <sup>3</sup> (高位発熱量)	0.0517t-CO2/GJ	1,428.0t-CO2
EM <sub>PJ</sub>			2,839.4t-CO2

### 6.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
No.1 ボイラー 704.9kL	38.9GJ/kL (高位発熱量)	0.0708t-CO2/GJ	1,941.4t-CO2
No.2 ボイラー 797.3kL	38.9GJ/kL (高位発熱量)	0.0708t-CO2/GJ	2,195.8t-CO2
EM <sub>BL</sub>			4,137.2t-CO2

### 6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0t-CO2

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	4,137.2t-CO2
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	2,839.4t-CO2
リークージ排出量 (7.3)	LE	0t-CO2
温室効果ガス排出削減量	ER	1,297t-CO2

## 7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン ①	実績 ②	ベースライン - 実績 ①-②
1,507.6	1,416.9	90.7

省エネ量 = 1507.6 (kl) - 1416.9 (kl) = 90.7 (kl)

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2012年4月1日 ~ 2013年3月31日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			
	t			